

東広島医療センター 呼吸器グループ



Updated Topics and Report (6th issue)

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

東広島医療センター呼吸器グループは、広島中央医療圏において日常診療に携わっておられる先生方へ、定期的に“**Updated Topics and Report**”を、お届けしております。

広島中央医療圏における呼吸器関連症例の3~4割が広島市や呉市等の域外で治療を受けられていると推測されます。これは我々のグループが地域医療に携わっておられる先生方や地域の皆さんにまだ十分な信頼が得られていないことも一因と考えております。皆さんに信頼していただける医療を提供できるよう今後も診療レベルの向上に努めてまいりますので、大変ご多忙中のところと存じますが、本誌を診療の合間にお読みいただければ幸いです。



今回は、本年度(2018年度)に当グループが受賞した主な表彰等についての報告とご紹介です。

2019年2月

▶ [村上呼吸器内科部長が共同研究者であった研究論文が、肺癌領域における Top Journal である *Journal of Thoracic Oncology* \(impact factor: 10.336\) の表紙に採用・掲載されました。](#)



ORIGINAL ARTICLE

IASLC

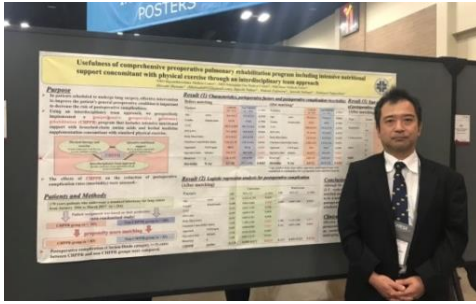
Check for updates

Innate Genetic Evolution of Lung Cancers and Spatial Heterogeneity: Analysis of Treatment-Naïve Lesions

Kenichi Suda, MD, PhD,^{a,b} Jihye Kim, PhD,^a Isao Murakami, MD, PhD,^c
Leslie Rozeboom, MS,^a Masaki Shimoji, MD, PhD,^b Shigeki Shimizu, MD, PhD,^d
Christopher J. Rivard, PhD,^a Tetsuya Mitsudomi, MD, PhD,^b Aik-Choon Tan, PhD,^{a,*}
Fred R. Hirsch, MD, PhD^a

原発性肺癌で緩和ケアのみとなった剖検症例において、原発巣と転移巣の遺伝子異常を次世代シーケンサーで網羅的に検索し遺伝子異常の類似性を生物統計学的に解析した。原発巣・転移巣間における遺伝子構造の Evolutional Tree (生物の進化系統樹に類似した樹形図：左上表紙) がそれぞれの症例において得られた。これらの Evolutional Tree は、腺癌、扁平上皮癌、小細胞癌等の組織型の違い、喫煙歴という発がん物質への暴露程度によって独特のパターンを呈した (Heterogeneity)。肺癌症例の生物学的悪性度や抗がん剤に対する効果および耐性メカニズムの解明には、この Evolutional Tree の違いを考慮することが極めて重要と考えられることを報告した。

▶ 原田呼吸器外科部長が、胸部疾患における世界最高峰の学会 *American College of CHEST Physician* (米国胸部疾患学会) において、**Top 5 Abstract Poster Award** を受賞しました。



前勤務病院である呉医療センターで行っていた肺癌手術前に多職種が参加する包括的リハビリテーションの有用性に関する研究発表。医師の技量のみではなく、理学療法士、管理栄養士、看護師、生理検査技師、言語聴覚士などの多職種



種専門家が術前から術後にいたるまで、それぞれその専門性を活かしたアプローチで患者に対応することが、周術期をより安全に乗り切るうえで重要であったという内容。東広島医療センターにおいても、さらに進化させた取り組みを多職種で開始すべく現在協議中です。

▶ 中島呼吸器外科医師が、内視鏡医学研究振興財団の研究助成を受賞しました。

肺切除術後の合併症のうち最も重篤な「気管支断端瘻」を防ぐ目的で、さまざまな方法で気管支断端を被覆する手術が行われています。当院では、オリンパス製の最新型内視鏡システム【VISERA ELITE II】を用いて、赤外線光により心膜周囲脂肪組織の血流を可視化することで、信頼性のある被覆組織の採取を目指すナビゲーション手術を行っており、この臨床的有効性の評価を行っていきます。



▶ 西村呼吸器内科医師と村上呼吸器内科部長が、日本内科学会中国地方会において **Young Investigator Award 奨励賞と指導医賞** を受賞しました。



当院では1~2例/年のレジオネラ肺炎を診療していますが、2018年6月から7月にかけて7例と例年と比べて多くのレジオネラ肺炎を経験しました。そのうち重症化した1例については人工呼吸器管理では酸素化を保つことができず、広島大学病院高度救急救命センターへ紹介し、ECMO(体外型膜型人工肺)を使用して救命しました。レジオネラについて共通の感染源がなかったかを詳細に調査し、旅行関連と孤発性の感染であったことを報告しました。

東広島医療センター呼吸器グループは、**最高レベルの医療を提供できるよう、充実したスタッフによる最良の診療**を心掛けてまいります。また**原則としてご紹介いただいた患者さんは、ご紹介元の先生に逆紹介するように心がけております**。何かご不明、ご不満な点などございましたら担当医までご一報頂けたら幸いです。

東広島医療センター呼吸器グループに対するご意見・ご質問・ご感想、またお知りになりたい情報等ございましたら担当医もしくは地域連携室までご連絡いただけますと幸いです(地域医療連携室 FAX : 082-493-6488)。